

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告(2)

竹ノ内Ⅱ遺跡(長野地区)

柳田遺跡

井ノ口城跡

下山新東遺跡

下山新遺跡

2001年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、新潟県・富山県・石川県・福井県・滋賀県の5県を通り、東は長野新幹線、西は東海道新幹線に連結する計画路線です。北陸地方の発展、活性化を担う高速交通網として地元の期待を受け、現在工事が進められています。

当埋蔵文化財調査事務所では、平成8年から日本鉄道建設公団の委託を受け、新幹線建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地について試掘確認調査をしてまいりました。今年度は、下新川郡朝日町内の5カ所の調査を行いました。

本書は、竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）、柳田遺跡、井ノ口城跡、下山新東遺跡、下山新遺跡の範囲や時代、遺存状態を把握するために実施した試掘確認調査の結果をまとめたものです。この調査の結果が今後の全面発掘調査と遺跡の理解・研究の助けになれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査にあたり多大なるご助力を賜りました関係各位に深く御礼申し上げます。

平成13年3月

財團法人富山県文化振興財團
埋蔵文化財調査事務所
所長 桃野真晃

例　言

- 1 本書は平成12年度に朝日町南保、大家庄、井ノ口及び下山新地内の北陸新幹線建設予定地内で実施した埋蔵文化財包蔵地の試掘確認調査の報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が日本鉄道建設公团からの委託を受けて実施した。
- 3 調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査員は次の通りである。
　調査第二課課長狩野 瞳、同係長酒井重洋、同主任島田美佐子、
　同文化財保護主事深堀 茜、町田 賢一、野口雅美
また、富山県埋蔵文化財センター調査課主任高梨清志氏のご指導・協力を仰いだ。
- 4 本書の編集は野口が担当し、執筆は酒井、島田、町田、野口が行った。
- 5 出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目　次

序	
例言	
目次	
I 位置と環境	1
II 調査の経緯	1
III 調査の結果	4
1 竹ノ内Ⅱ遺跡	4
2 柳田遺跡	7
3 井ノ口城跡	8
4 下山新東遺跡	13
5 下山新遺跡	14
引用参考文献	18
写真図版	
報告書抄録	

図・表目次

第1図 調査対象地と周辺の遺跡	2
第2図 竹ノ内Ⅱ遺跡トレンチ位置	5・6
第3図 柳田遺跡トレンチ位置	9・10
第4図 井ノ口城跡トレンチ位置図	11・12
第5図 下山新東遺跡トレンチ位置図	15・16
第6図 下山新遺跡トレンチ位置図	17
第1表 調査結果一覧	1
第2表 調査対象地と周辺の遺跡一覧表	3
第3表 竹ノ内Ⅱ遺跡トレンチ一覧	4
第4表 柳田遺跡トレンチ一覧	7
第5表 井ノ口城跡トレンチ一覧	8
第6表 下山新東遺跡トレンチ一覧	13
第7表 下山新遺跡トレンチ一覧	14
第8表 平成12年度試掘確認調査一覧	18

I 位置と環境

越中・飛騨・信濃の境にある鷲羽山に源を発し、日本海へ注ぐ黒部川は、川下に大量の砂礫を運び、大きな扇状地を形成している。今年度の調査対象地である黒部川右岸には、扇頂部の宇奈月町愛本から朝日町元屋敷の海岸にかけて標高250~500mの丘陵が連なり、その山裾には発達した河岸段丘がみられる。また、北側の丘陵から発する舟川・小川が、複雑な地形の複合扇状地を作り出している。この黒部川右岸の丘陵の山裾や段丘に沿って縄文時代や中世の遺跡が立地する。縄文時代の遺跡としては、段丘端部に国指定史跡の不動堂遺跡、段丘上には県指定史跡の愛本新遺跡・坪野遺跡がある。また、海岸を臨む丘陵の尾根には舟見城・横尾城・宮崎城など中世の山城が築かれており、舟川・小川に面した低位段丘上には中世以降継続して集落跡や寺院、城館などが散在する。かっては古代北陸道の佐味駅が現在の入善町泊付近にあり、古くから越後への交通の要所として栄えていたと思われる。

黒部川扇状地は現在でも水田の多い農業地帯であるが、古代・中世にもいくつかの莊園が存在したようである。入善町のじょうべのま遺跡を、「東大寺領丈部荘」あるいは「西大寺領佐味荘」「西大寺領佐味西莊」に比定する説がある。

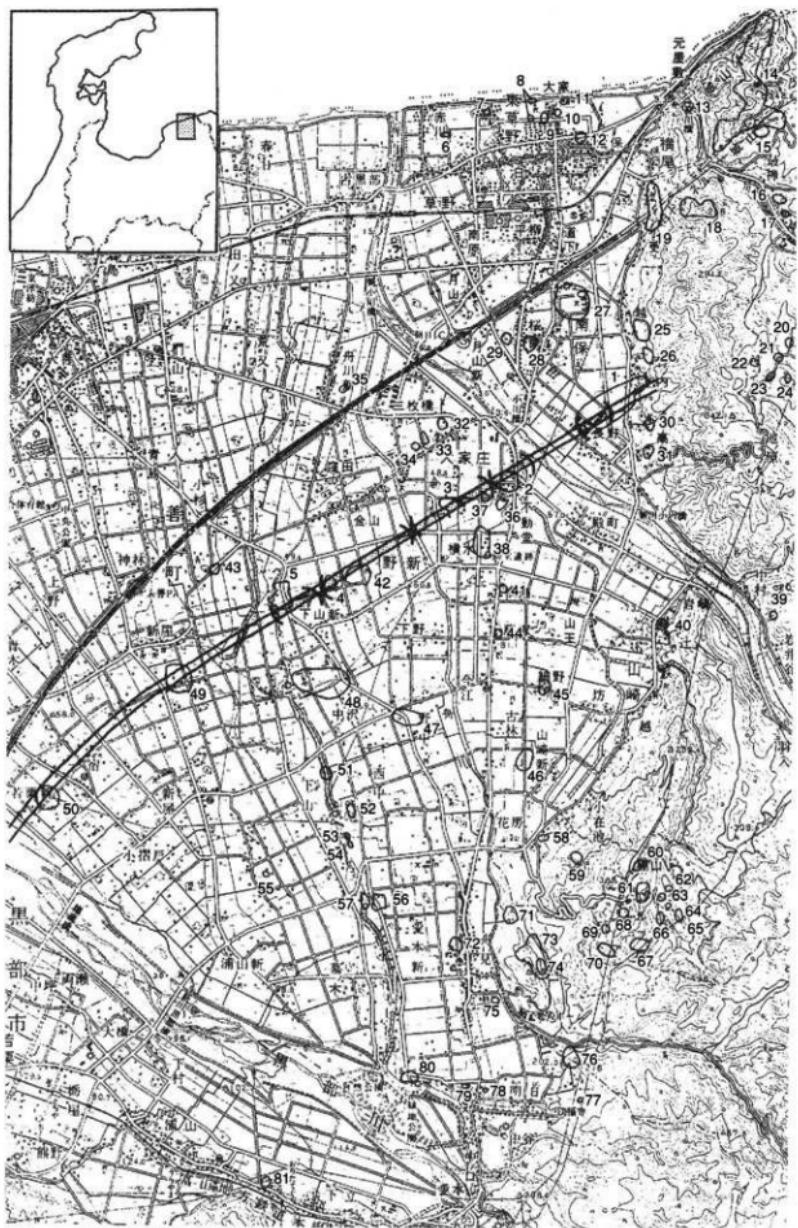
今回調査した5遺跡は、竹ノ内Ⅱ遺跡長野地区が小川右岸の山裾に、柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡は黒部川右岸の東側に連なる中位段丘の端部に位置している。

II 調査の経緯

北陸新幹線の建設予定地内に存在する埋蔵文化財包蔵地は、昭和60年・平成7年に富山県教育委員会文化課（現文化財課）と富山県埋蔵文化財センターによって行われた調査で県東部の19ヶ所、県西部の11ヶ所が確認されている（周知の遺跡を含む）。建設に先立ち用地内遺跡の試掘確認調査の要望が県文化財課に寄せられた。日本鉄道建設公団と県文化財課両者の協議の結果、富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所に調査を依頼することになった。これを受けて、平成8年度には小矢部市下川原遺跡、平成11年度には入善町H S-11遺跡・H S-12遺跡と朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡南保地区の調査を実施した。また、工事着工が急がれる工区の柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡の調査を、平成12年度に実施することとなった。調査は竹ノ内Ⅱ遺跡長野地区が平成12年4月17~20日の4日間、柳田遺跡他4遺跡が平成12年10月16~27日の9.5日間で行った。以下に調査の概要を記す。

遺跡名	対象面積	調査面積	遺跡の有無	遺跡推定面積
竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）	11,520m ²	1,047m ²	有（古代・中世）	古代・中世重層 3,216m ² 中世 7,005m ²
柳田遺跡	11,340m ²	754m ²	有（縄文・中世）	7,320m ²
井ノ口城跡	12,960m ²	865m ²	無	
下山新東遺跡	22,680m ²	2,664m ²	有（縄文）	1,447m ²
下山新遺跡	3,420m ²	496m ²	有（縄文）	5,190m ²

第1表 調査結果一覧



第1図 調査対象地と周辺の遺跡（1:50,000）

番号	名 称	所 在 地	地図番号	種 別	時 代	備 考
1	竹ノ内日遺跡	朝日町竹ノ内・瓦戸	340367	散布地	古代・小量	平成11年試掘調査
2	柳田遺跡	朝日町大字柳田字柳田	340363	集落	绳文(前・晩)・中世	昭和49・平成3年発掘調査
3	月ノ口城跡	朝日町井ノ口	340368	城壁	中世	
4	下山新良遺跡	朝日町下山新	340368	集落	绳文(前・晩期)	昭和52年試掘調査
5	下山新良遺跡	朝日町下山新宇板	340369	集落	绳文(中・後期)	昭和47・48・50・51年 発掘調査
6	東草野Ⅱ遺跡	朝日町東草野	340359	散布地	中世	昭和60年試掘調査
7	東草野Ⅱ遺跡	朝日町東草野	340358	散布地	中世	昭和62年試掘調査
8	大家東跡	朝日町大字宇佐瀬	340357	散布地	平安・中量	昭和60年試掘調査
9	大家東善光寺跡	朝日町大家	340306	散布地	中世・五量	昭和62年試掘調査
10	大家見日遺跡	朝日町大家	340305	散布地	古墳・中世	昭和51・52年試掘調査
11	大家見日遺跡	朝日町大家	340304	散布地	中世	昭和61年試掘調査
12	三河遺跡	朝日町治田中三坪	340303	散布地	绳文(後・地層)	
13	首崎御跡	朝日町元宿宇摩川	340327	窯	江戸(太陽)	
14	首崎城跡	朝日町元宿宇摩川	340326	山城	平安(太陽)・安土桃山	昭和40年鳥居定鑑跡
15	白ヶ谷古墓	朝日町白ヶ谷ノ口ヶ谷	340301	墓	鍾乳	
16	北野山遺跡	朝日町北野山字北野	340329	散布地	旧石・绳文(早・中期)	
17	疊押坊跡	朝日町疊押字御嶽	340303	寺院	中世	
18	横尾城跡	朝日町横尾	340328	山城	中世	
19	横尾遺跡	朝日町横尾字牛津の津	340360	散布地	绳文(中期)	
20	中ノ沢遺跡	朝日町原川字中ノ沢	340349	集落	绳文(中期)	
21	水沢A遺跡	朝日町笠原	340350	散布地	绳文(後・中期)	
22	鳥が平遺跡	朝日町原川字平鳥南谷	340305	散布地	绳文(中期)	
23	水沢B遺跡	朝日町笠原	340303	散布地	绳文(後・中期)	
24	水沢C遺跡	朝日町笠原	340303	散布地	绳文(中期)	
25	越塚跡	朝日町越	340347	散布地	绳文(中期)	
26	行ノ内遺跡	朝日町行ノ内	340348	散布地	不明	
27	町南保遺跡	朝日町南保	340342	散布地	古代・小量	
28	西保城跡	朝日町西保町	340343	城跡	奈良(宋朝)	
29	古箭城跡	朝日町紙町	340346	城跡	中世	
30	清水遺跡	朝日町清水	340354	散布地・寺院	中世	
31	高岱城跡	朝日町南保字大崩	340305	城跡	鍾乳(初期)	
32	船ノ城跡	朝日町三牧字宇原	340360	城跡	高町	昭和51年試掘調査
33	天ノ城跡	朝日町三牧	340361	散布地	中世	昭和51年試掘調査
34	天香寺遺跡	朝日町三牧橋	340362	寺院	高町	昭和51年試掘調査
35	舟川新良遺跡	朝日町舟川新	340358	散布地	不明	
36	不動堂A遺跡	朝日町不動堂	340364	散布地	绳文(後期)	
37	鷹川古墳	朝日町鷹川	340365	墓	中量	昭和49年墳頂調査
38	不動堂遺跡	朝日町不動堂字三室	340366	兔坑	绳文(後期)	昭和49年指定遺跡
39	豊井谷剝穴	朝日町南保字豊井谷	340356	洞窟	高町	
40	込道跡	朝日町込	340357	散布地	不明	
41	横木一塙塚	朝日町横木	340370	散布地	江戸(?)	昭和42年町指定調査
42	高島遺跡	朝日町蓬田字高島	340367	堆	绳文(後期)・近世	昭和32年試掘調査
43	富士塙遺跡	人磐町小移	340303	集落?	奈町	
44	豊塙古墳	朝日町豊塙字大野	340371	朱塗	占原	
45	綱野遺跡	朝日町綱野	340372	集落	不明	
46	今江遺跡	朝日町新山人吉町	340368	散布地	绳文(中期)	
47	野中遺跡	人磐町野中	340205	散布地	绳文	
48	中沢遺跡	人磐町中原	340204	散布地	绳文(後期)	
49	H.S - 1-2 遺跡	人磐町新保	340218	散布地	近世	平成11年試掘調査
50	H.S - 1-1 遺跡	人磐町小増戸	340219	散布地	中世?	平成11年試掘調査
51	下山山遺跡	人磐町下山	340207	散布地	绳文	
52	西中遺跡	人磐町西中	342048	散布地	绳文	
53	下山地東遺跡	人磐町字魚瀬	342009	寺院	不明	
54	下山八幡社遺跡	人磐町字地蔵	342010	寺社	佛寺	
55	新川島遺跡	人磐町新川字島	342011	散布地	绳文(後期)	
56	愛本前遺跡	宇摩月町愛本字前	341001	集落?	绳文(中・後期)	昭和45年県指定遺跡
57	坪野遺跡	人磐町下山字坪野	342012	散布地	绳文(後期)	昭和40年県指定遺跡・平成元年試掘調査
58	山脇花房跡	朝日町山脇花房	340373	集落?	绳文(中期)	
59	禪木山遺跡	朝日町山脇字禪木	340374	朱塗	绳文(中期)	
60	禪山八塙跡	朝日町禪山	340375	散布地	绳文	平成3年試掘調査
61	禪山F遺跡	朝日町禪山	340368	散布地	绳文	平成3年試掘調査
62	御木大平A遺跡	朝日町禪山	340360	集落?	绳文(前・中期)	平成3年試掘調査
63	御木大平B遺跡	朝日町禪山	340361	散布地	绳文(前・中期)	平成3年試掘調査
64	御木大平C遺跡	朝日町禪山	340362	散布地・墓	不明	平成3年試掘調査
65	御木大平D遺跡	朝日町禪山	340364	散布地・墓	绳文・近世	
66	舟見御殿山遺跡	朝日町御殿山	340363	墓	江戸(?)・明治(初)	平成3年試掘調査
67	禪山B遺跡	朝日町禪山	340379	散布地	绳文(中期)・平安	平成3年試掘調査
68	禪山B遺跡	朝日町禪山	340376	散布地	绳文(中期)・平安	平成3年試掘調査
69	禪山C遺跡	朝日町禪山	340377	墓	不明	
70	禪山D遺跡	朝日町禪山	340378	散布地	绳文	平成3年試掘調査
71	舟見鬼哥遺跡	人磐町下山字應諾	342013	散布地	绳文	
72	舟見小学校施設遺跡	人磐町舟見	342014	散布地	绳文(中期)	
73	舟見城跡	人磐町舟見字荒糸	342016	山城	京町	平成2年試掘調査
74	舟見鬼哥遺跡	人磐町舟見字千賀	342015	散布地	绳文(中期)・後世	平成2年発掘調査
75	舟見小城跡	人磐町舟見字小惣	342017	散布地	京町	
76	明日A遺跡	宇摩月町明日	341004	散布地	绳文	
77	明日C遺跡	宇摩月町明日	341005	散布地	绳文	
78	明日D遺跡	宇摩月町明日	341006	散布地	绳文	
79	愛木小学校遺跡	宇摩月町愛木本	341003	散布地	不明	
80	風野遺跡	宇摩月町下山字風野	341002	散布地	绳文(後・晩期)	平成12年発掘調査
81	下立遺跡	宇摩月町下山字立	341009	散布地	绳文(中期)	

第2表 調査対象地と周辺の遺跡一覧表

III 調査の結果

1. 竹ノ内Ⅱ遺跡

調査対象地

竹ノ内Ⅱ遺跡は、県境から続く山地裾より、西側の台地上に位置する。現況は、水田である。一帯は、昭和38年頃からは場整備が行われ、標高の高い東側ほどその影響を強く受けている。調査範囲は、山裾から県道山崎・泊までの南保地区（対象面積5,000m²・試掘トレンチ7本）を昨年度、県道山崎・草野線までの長野地区（対象面積11,520m²・試掘トレンチ16本）を今回の調査で行った。

基本層序	I 层	現耕作土	暗灰黄色シルト (20cm)
	II 层	盛土	灰色シルト、黄褐色粘質土 (10cm~30cm)
	III 层	中世遺物包含層	暗灰黄色シルト、灰オリーブ色シルト・粘質土 (10cm~40cm)
	IV 层	中世遺構検出面	褐色シルト、灰オリーブ色シルト・粘質土 (20cm~30cm)
	V 层	古代遺物包含層	黄褐色シルト・粘質土
	VI 层	古代遺構検出面?	黄褐色シルト
		地山	礫、にぶい黄褐色砂質土・粘質土

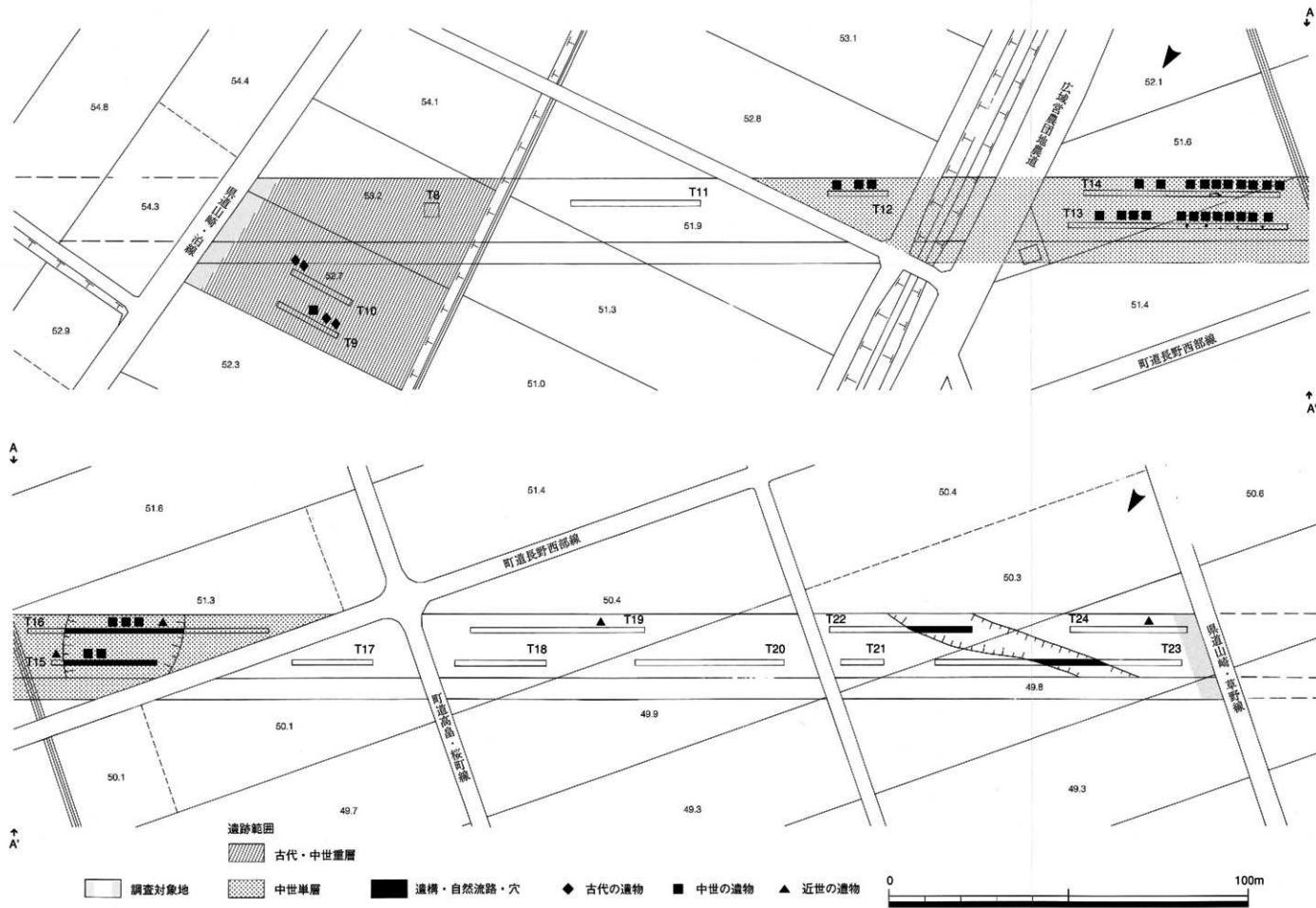
調査結果

T 9・10ではI~V層が堆積し、昨年度調査した南保地区より続く古代・中世の遺物包含層を検出した。また、付近からは土器類・須恵器・珠洲などを表探した。T 8は、盛土の深さ2mほどで湧水したため、掘削を断念した。T 8・9・10は、遺構の検出はなかったが、隣接する南保地区と同じ層の広がりがみられることから古代・中世2面の文化層の存在が想定される。T 11では、ほ場整備による削削の影響でI・II層の下にIII~V層は堆積していなかった。T 12ではI~IV層、T 13~16ではI~IV・VI層が堆積しており、III層から中世の遺物（珠洲・中世土器類）が出土している。T 13では柱穴と考えるピット8基、T 14では円形に巡るを考える溝・土坑2基を検出した。T 16ではT 14から続くVI層（礫）が一段下がった落ち込みの中でピット16基を検出した。このうちの1基からは、珠洲窓の破片が出土している。T 17~24では、I・II・VI層（礫）の堆積で遺物包含層はなかった。VI層（礫）上面で溝や谷を検出したものの、ほ場整備前の流路と考えられる。

以上のことから、本調査の対象は、ほ場整備による削削部分を除いた東は県道山崎・泊線から西は町道長野西部線までの間となる。よって本調査対象面積は、7,005m²となり、古代・中世重層分3,216m²を加えると延べ面積は、10,221m²となる。

トレンチ番号	全长(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土遺物	備考
T8	4.0	2.0	-	-	湧水のため、包含層確認できず
T9	19.5	0.3	-	土器類・珠洲・中世土器類・青花	古代・中世の遺物包含層を確認
T10	19.5	0.4	-	土器類	古代・中世の遺物包含層を確認
T11	36.0	0.7	-	-	同場整備による削削
T12	18.0	1.0	-	中世土器類・青磁・炉盤・不明陶器	中世の遺物包含層を確認
T13	62.0	0.6	穴8	土器類・珠洲・中世土器類・青磁・白磁・前・唐津・羽口II	中世の遺物包含層を確認
T14	56.0	0.5	穴2・溝1	中世土器類・珠洲・白磁・瓦器・越中瀬戸・鉄滓	中世の遺物包含層を確認
T15	29.5	0.5	-	中世土器類・珠洲・越中瀬戸	
T16	68.0	0.4	穴16	中世土器類・珠洲・越中瀬戸	中世の遺物包含層を確認
T17	23.0	0.4	-	-	中世の遺物包含層を確認
T18	26.0	1.1	-	-	
T19	50.0	0.5	溝2(近世以降)	伊万里・越中瀬戸	
T20	43.0	0.4	-	-	
T21	13.5	0.4	-	-	
T22	42.0	0.5	-	-	
T23	67.5	0.4	-	-	谷の肩部
T24	33.0	0.4	-	伊万里	谷の肩部

第3表 竹ノ内Ⅱ遺跡トレンチ一覧



第2図 竹ノ内Ⅱ遺跡トレーンチ位置図 (1:1000)

2. 柳田遺跡

調査対象地

柳田遺跡の調査範囲は、小川左岸から町道大家庄・藤塚線までの間で、現況は水田・一部宅地で、対象面積は11,340m²である。一帯は昭和49年に県営は場整備事業に先立つ緊急発掘調査が行われている。試掘トレチは小川と山合川の間に5本、主要地方道朝日・宇奈月線以西に17本と計22本を、路線敷きに平行または直交するように設定した。

基本層序

I a 層	現耕作土	暗灰黄色シルト (10cm~20cm)
II b 層	整地土	黒褐色シルト (10cm~20cm)
II a 層	中世遺物包含層	暗オリーブ褐色シルト (10cm~20cm)
II b 層	縄文時代遺物包含層	黒みが強い黒褐色シルト (10cm~20cm)
III 層	縄文時代遺構検出面	にぶい黄色粘質土・黄褐色砂礫

調査結果

調査範囲東側の小川と山合川の間に設定したT 1~5は、耕作土直下が砂礫層となっており、小川の氾濫原であったと推定される。調査対象地の中央にあたるT 6~10では遺物包含層であるII a・II b層が比較的良好な状態で遺存していた。しかし、ほ場整備によって各田面の切土側にあたる各トレチの南西側は削平を受けている模様である。特に対象範囲の高位にあたる西側のT 12~T 20においては、現耕作土・整地土直下が砂礫層となっており、包含層は遺存しなかった。遺物包含層は、T 8から白磁片が出土したことから中世のII a層と縄文時代のII b層に分けられる。従ってII b層上面を中世の遺構検出面と推定ができるが、II a・II b層がともに残っているトレチにおいての土層の断面観察では明確な中世の遺構は検出できなかった。

遺構はT 6~9・21のIII層上面、および断面観察において縄文時代のものと考える溝・土坑・穴が多数見つかっている。また、T 12ではII b層上面から掘り込まれる溝と、II b層が落ち込む谷の肩部を検出している。遺物は、縄文土器・叩石・石刀・珠洲・白磁が出土している。縄文土器は小破片がほとんどだが、縄文時代後期後半から晩期の特徴をもったものが見られる。珠洲は堀とIV期(14世紀)の鉢が出土している。

対象範囲の中で今回調査ができなかった主要地方道朝日・宇奈月線の両側の宅地部分については、道路から東側は一段低くなってしまい、周辺を踏査した結果遺物の散布も認められなかつたことから、この範囲は本調査の対象外と考えられた。しかし、道路の西側については、試掘調査の状況から遺物包含層のがびている可能性が高く、本調査の対象となり得ると考える。従って今回の試掘調査によって本調査の対象となるのは、朝日・宇奈月線西からT 12の水田までの7,320m²である。また、この対象範囲においては、縄文時代と中世の2時期の遺構の存在が予想される。

3. 井ノ口城跡

調査対象地

井ノ口城跡は柳田遺跡の西側に隣接し現況は水田・宅地である。調査範囲の中で中央の宅地部分が微高地となっており、その西側は舟川に向かって傾斜している。試掘トレチは宅地部分をはずし、対象範囲の東西の両端に計25本を設定した。調査対象面積、12,960m²である。

基本層序

I a 層	現耕作土	黒褐色シルト (10cm~20cm)
II b 層	整地土	黒褐色シルト (10cm~30cm)
II 層	遺物包含層 (縄文時代?)	黒色シルト・暗褐色シルト (10cm~20cm)
III 層	地山	にぶい黄色粘質土・明褐色粘質土・黄褐色砂礫

調査結果

調査範囲の大部分のトレチにおいて原耕作土・整地土直下がIII層の砂礫層となっている。遺跡の中央から東側のT 1~15の範囲において特にほ場整備による切土・盛土が著しい。遺跡西側の

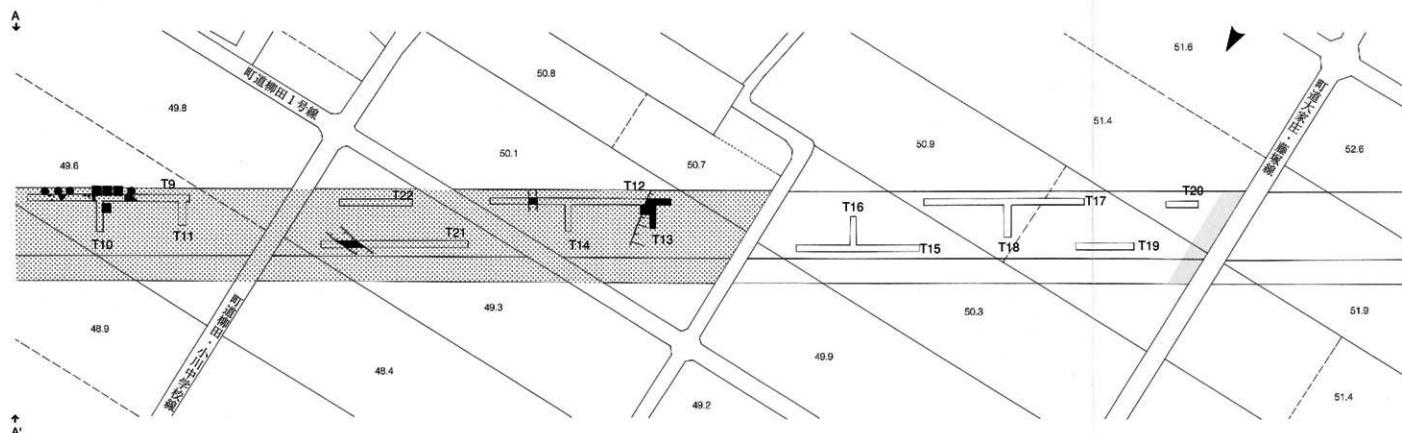
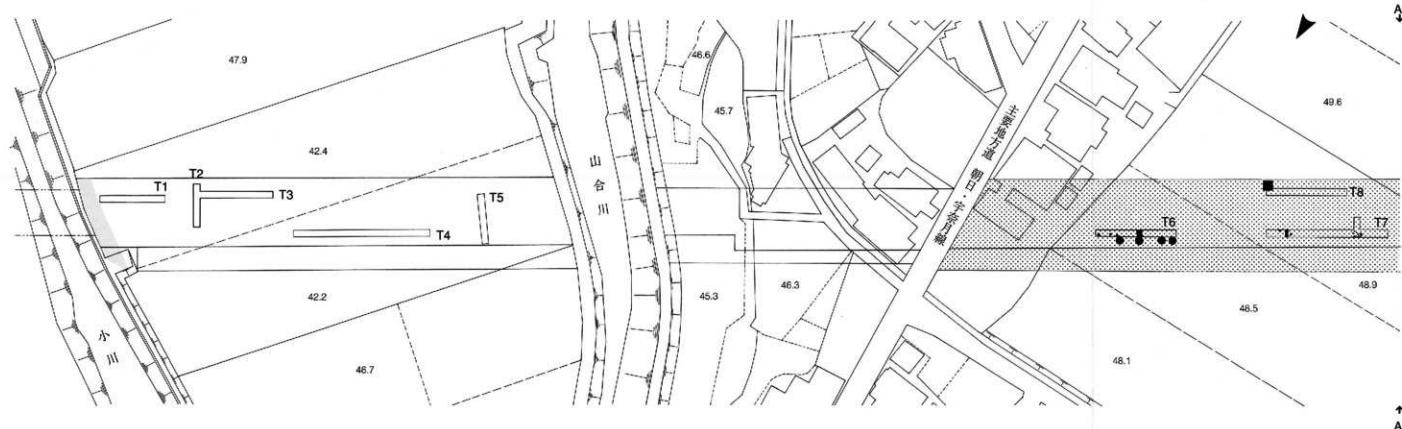
T18・19では比較的安定して遺物包含層と推定されるⅡ層が遺存していたが、ほ場整備による転圧の影響が認められる。T20西側ではⅢ層が西に向かって傾斜し、それ以西はかっての舟川の旧河道と推定される。遺構は溝・谷・落ち込み・穴などを見つかってはいるが、ほ場整備前の新しい時期のものか、性格がわからないものが多い。遺物もT12・18のⅡ層から縄文土器の小片、叩石が出土しているにすぎない。従って、今回の試掘調査においては、遺物包含層の遺存状況が悪く、遺物の出土もわずかで遺跡の性格・範囲を特定することはできなかった。今回調査ができなかつた宅地部分については、宅地移転後に試掘確認調査をする予定である。

レンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土・遺物	備考
T1	17.0	0.5	-	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T2	12.0	0.3	-	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T3	19.0	0.3	-	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T4	35.0	0.4	-	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T5	13.0	0.3	-	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T6	21.0	0.8	土坑1・穴3	縄文土器	
T7	32.0	0.6	溝1・穴12	縄文土器・珠洲	
T8	19.0	0.6	-	縄文土器・叩石・白磁	Ⅱa層から白磁出土
T9	43.0	0.7	溝1・土坑2・穴7	縄文土器・石刀・珠洲	
T10	7.0	0.6	-	珠洲	
T11	6.0	0.7	-	-	Ⅱ層なし
T12	47.0	0.3	溝1・谷1	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T13	5.0	1.1	谷1	珠洲	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T14	7.0	0.3	-	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T15	31.5	0.6	-	-	Ⅱ層なし
T16	7.0	0.6	-	-	Ⅱ層なし
T17	42.0	0.5	-	-	Ⅱ層なし
T18	6.0	0.5	-	-	Ⅱ層なし
T19	13.5	0.3	穴4	-	Ⅱ層なし
T20	7.5	0.3	-	-	擾乱あり
T21	34.0	0.4	溝1・穴4	越中瀬戸	
T22	19.0	0.4	-	-	

第4表 柳田遺跡トレント一覧

レンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土・遺物	備考
T1	28.0	0.4	穴4	-	
T2	7.0	0.4	-	-	Ⅱ層なし
T3	36.0	0.6	谷	-	高18.5mの谷、新しい
T4	30.5	0.9	谷	-	T3から続ぐ谷
T5	13.5	0.3	-	-	Ⅱ層なし、地山砂疊層
T6	23.5	0.2	溝1・穴1	-	
T7	8.0	0.7	-	-	
T8	7.0	0.5	-	-	Ⅱ層なし
T9	33.0	0.2	溝1・穴3	-	
T10	2.0	0.3	-	-	Ⅱ層なし
T11	2.0	0.3	-	-	Ⅱ層なし
T12	33.5	0.5	溝1・穴2	縄文土器	一部擾乱
T13	7.5	0.7	-	-	
T14	14.5	0.3	穴?1	-	Ⅱ層なし
T15	17.5	0.5	穴1	-	
T16	14.0	0.4	-	-	Ⅱ層なし
T17	7.0	0.4	-	-	Ⅱ層なし
T18	43.0	0.4	穴?10	縄文土器・叩石	
T19	38.0	0.5	土坑1・穴7	-	
T20	37.0	0.6	谷	-	舟川の旧河道か
T21	11.0	0.2	谷	-	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T22	34.0	0.3	谷	-	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T23	37.0	0.5	谷	-	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T24	21.5	0.4	谷	-	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T25	3.0	0.3	谷	-	

第5表 井ノ口城跡トレント一覧



調査対象地

遺跡範囲

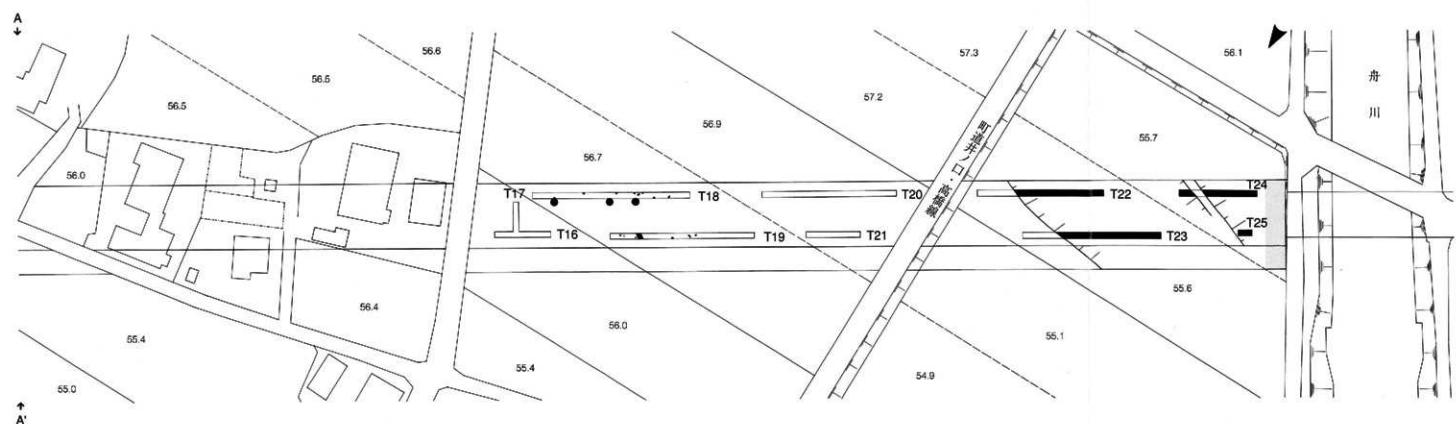
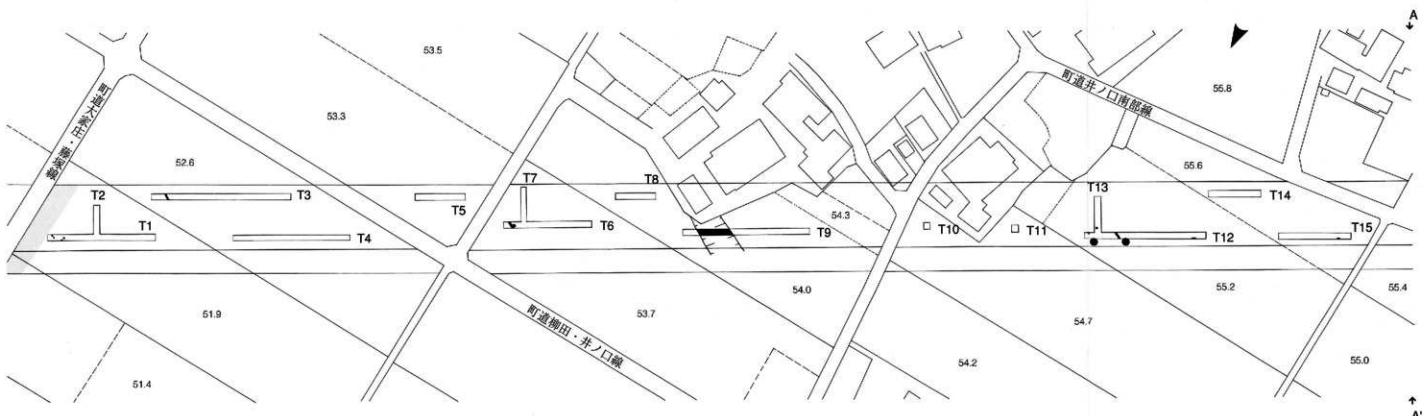
構造・自然流路・穴

● 桿文時代の遺物

■ 中世の遺物



第3図 柳田遺跡トレーンチ位置図 (1:1000)



■ 調査対象地 ■ 造構・自然流路・穴 ● 繩文時代の遺物

0 100m

第4図 井ノ口城跡トレーンチ位置図 (1:1000)

4. 下山新東遺跡

調査対象地

黒部川右岸の低位段丘の中央を流れる舟川の西側縁辺部に位置する、高橋遺跡(県遺跡台帳343067)を含む延長約1.3kmが調査対象である。段丘上は開拓された小さな谷が連なり、その間に見られる微高地に遺跡が点在すると考えられる。標高は、東端の段丘中央部の舟川付近で57m、西側の黒部川よりのT33付近で約60mである。

基本層序	I 层	現耕作土・盛土	黒褐色土又はシルト(20cm~80cm)
	II 层	縄文時代の包含層	黒色粘質土又はシルト(10cm~30cm)
	III 层	縄文時代の造構検出面	黒褐色土又はシルト、暗褐色土(20cm~30cm)
	IV 层	地山	黄褐色粘土又は円礫を含む明褐色粗砂層

調査の結果

対象地は、昭和40年代から50年代に行われたほ場整備のため著しく削平を受けた部分が見られる。

路線幅17mの対象地に水田毎に試掘溝を設け遺跡の有無を確認した。T1~4・7・12・21・26・28・33では、II・III層は削平を受け確認されず、地山の上には場整備時の盛土、現耕作土の順に堆積していた。また、II・III層が確認されるのはT22・23・29・30部分だけでその他の場所では耕土下がIII層となっている。

調査ではIII層上面、地山面で溝や風倒木痕などが確認され、溝はほ場整備以前の水路や自然流路と考えられた。また、T4では風倒木痕の中から縄文時代前期の土器がまとまって出土したが、それ以外に遺構などは確認されなかった。

遺物は、II層からの出土で、造構検出面はIII層上面と考えられる。T3・4・20・22・24・29・30・32・33から縄文土器が出土したが、T23・24とT29・30付近を除き包含層は認められない。T23・24で縄文時代晚期、T29・30で縄文時代後期の土器が出土した。またT32・33では、近世の家の跡と考えられる柱穴などが検出され、18世紀頃の伊万里・唐津・越中瀬戸の出土をみた。

調査対象地の中で縄文時代の遺物包含層、造構検出面が認められたのは、T23・24付近とT29・30付近の2ヶ所である。本調査の対象となるのはそれぞれ789m²と658m²となり、合わせて1,447m²である。また、T32・33にみられる宅地跡は、江戸時代のものであり調査の必要はないと考えられる。

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土遺物	備考
T1	32.8	0.6	-	-	II・Ⅲ層なし
T2	48.4	0.4	-	-	II・Ⅲ層なし
T3	29.0	0.4	-	-	II・Ⅲ層なし
T4	76.8	0.8	風倒木・溝	縄文土器・伊万里	II・Ⅲ層なし
T5	41.5	0.6	-	-	II・Ⅲ層なし
T6	79.6	0.8	溝	-	II・Ⅲ層なし
T7	36.0	0.8	-	-	II・Ⅲ層なし
T8	70.7	0.6	-	-	II・Ⅲ層なし
T9	42.5	0.5	-	-	II・Ⅲ層なし
T10	76.0	0.4	風倒木	-	II・Ⅲ層なし
T11	58.0	0.6	溝・穴	現代陶磁器	II・Ⅲ層なし
T12	18.2	0.4	-	-	II・Ⅲ層なし
T13	66.5	0.6	風倒木・穴	-	II・Ⅲ層なし
T14	68.5	0.6	溶・穴	-	II・Ⅲ層なし
T15	67.0	0.4	風倒木	-	II・Ⅲ層なし
T16	23.5	0.6	風倒木・穴	-	II・Ⅲ層なし
T17	48.6	0.5	風倒木・穴	-	II・Ⅲ層なし
T18	36.0	0.6	-	-	II・Ⅲ層なし
T19	51.7	0.4	-	-	II・Ⅲ層なし
T20	86.0	0.4	風倒木・穴	縄文土器・伊万里	II・Ⅲ層なし
T21	36.0	1.2	-	-	II・Ⅲ層なし
T22	35.5	0.3	-	縄文土器	II・Ⅲ層なし
T23	5.0	0.9	-	-	II・Ⅲ層なし
T24	33.8	0.6	-	縄文土器・石皿・伊万里	II・Ⅲ層なし
T25	28.0	0.5	穴	-	II・Ⅲ層なし
T26	33.5	0.3	-	現代陶磁器	II・Ⅲ層なし
T27	76.0	0.4	風倒木・穴	縄文土器	II・Ⅲ層なし
T28	36.2	0.3	-	-	II・Ⅲ層なし
T29	55.4	0.8	上坑	縄文土器	II・Ⅲ層なし
T30	14.0	1.6	-	縄文土器・伊万里	II・Ⅲ層なし
T31	62.2	0.3	溶・上坑	地中窯・現代陶磁器	II・Ⅲ層なし
T32	54.1	0.4	溶・上坑	縄文土器・伊万里・唐津・越中瀬戸	II・Ⅲ層なし
T33	39.6	0.3	-	縄文土器・伊万里・越中瀬戸	II・Ⅲ層なし

第6表 下山新東遺跡 トレンチ一覧

5. 下山新遺跡

調査対象地

下山新遺跡は黒部川の隆起扇状台地の縁辺部にあたり、調査範囲西側は段丘崖となっている。帯は昭和47年と48年に県営は場整備事業に先立つ発掘調査が行われており、今回の調査範囲は遺跡範囲の縁辺部にあたる。試掘トレンチは計13本設置し、対象面積は3,420m²である。

基本層序

Ia 層	現耕作土	黒褐色シルト (15cm~20cm)
Ib 層	整地土	褐灰色砂質土 (10cm~30cm)
II 層	縄文時代遺物包含層	黒褐色粘質土・黒褐色砂質土 (20cm~30cm)
III 層	縄文時代遺構検出面	黒色シルト (20cm~40cm)
IV 層	地山	橙色粘質土

調査結果

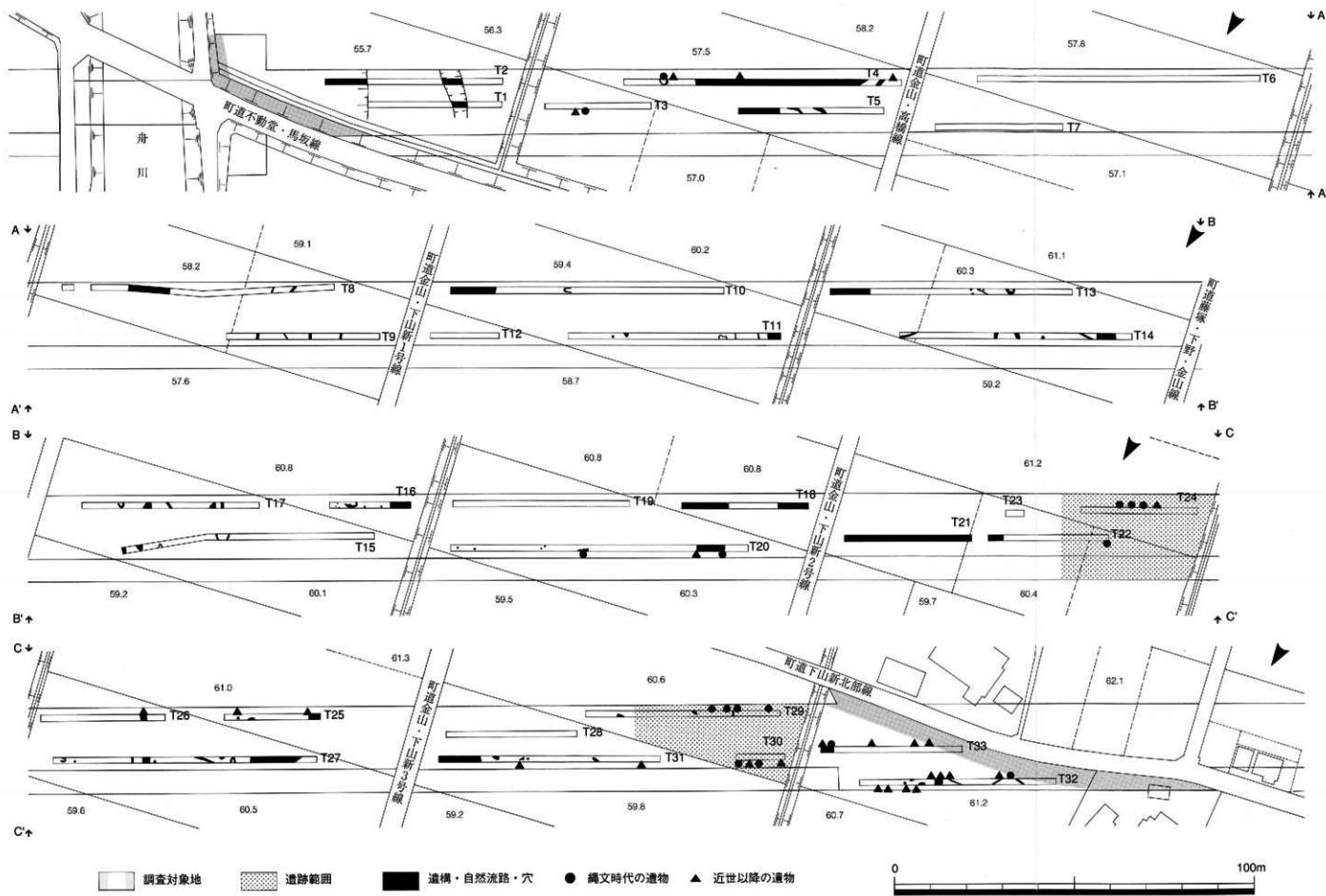
調査は対象範囲の西側から行い、現耕作土・整地上下には縄文時代の遺物包含層であるII層が良好な状態で遺存していることが確認できた。トレンチはすべてIV層まで掘削したが、III層の黒色シルトからは遺物は出土せず、III層上面が遺構検出面と考えられる。調査範囲中央を横切る県道舟見・入善線の両側のT3・6では県道に向かって次第にII層が削平され、耕土直下がIV層となっていることから旧地形では県道部分が微高地で東西の両側に向かって緩やかに傾斜していたようである。当初予定の調査範囲の東端にあたるT4を調査した結果、そこでもII層が安定して遺存し、遺物の出土も認められたことから、遺跡の東側への広がりを確認すべく、下山新東遺跡との間にT7~13を設定し、試掘確認調査を続行した。その結果、T7までは包含層の遺存と遺物の出土が認められたがT9より東は田面が一段下がっており、ほ場整備による削平を受けて、包含層は残っていないかった。

調査ではIV層の地山まで掘削したので、検出した遺構はすべて土層の断面観察によるものである。特にT1・4で土坑や穴が多く認められた。T6では南北方向の小規模な谷が見つかっている。遺物には、縄文土器と打製石斧がある。縄文土器はすべて小破片で量も少ないが、縄文時代前期前葉・中期前葉から後葉までの特色をもったものが出土している。

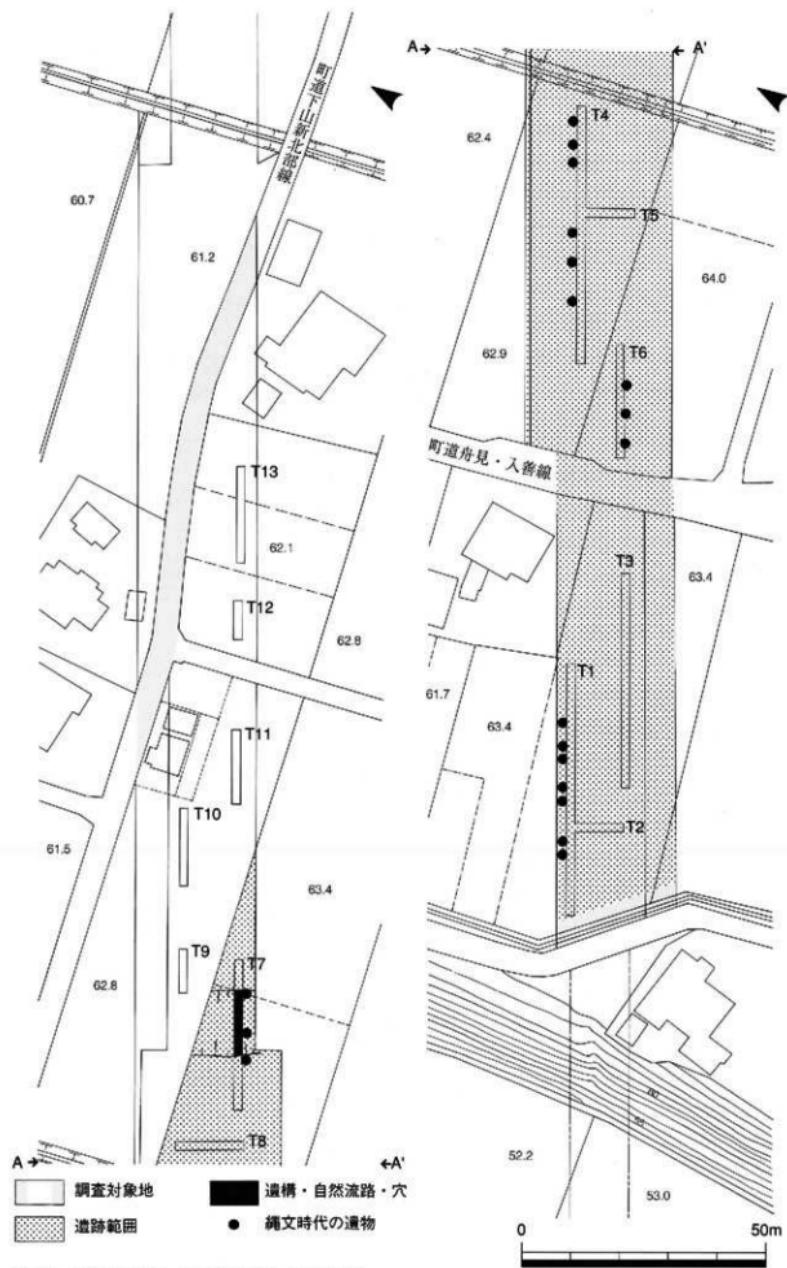
下山新遺跡は、T7以西において良好な遺物包含層が遺存しており、遺構・遺物の散布も認められた。今回の調査の結果によって本調査の対象となるのは、東への広がりを確認した部分を加えた5,190m²である。また、試掘調査対象範囲外となってはいるが、遺跡が段丘落ち際までのびている可能性がある。

トレンチ番号	全长(m)	掘削深度(m)	検出 遺構	出土 遺物	備 考
T1	50.0	0.8	穴7	縄文土器	
T2	9.5	0.8	穴1	-	
T3	43.5	0.6	穴1	-	東側はII・III層なし
T4	50.0	0.7	穴6	縄文土器	
T5	8.0	0.6	穴1	-	
T6	23.5	1.0	穴1	縄文土器・打製石斧	
T7	30.0	0.6	谷	縄文土器	
T8	14.0	0.6	-	-	北側擾乱あり
T9	7.5	0.2	-	-	II層なし
T10	15.5	0.3	-	-	II層なし
T11	14.5	0.8	-	縄文土器・越中漆	II層わずかに残る
T12	8.0	0.4	-	縄文土器	II層なし
T13	18.0	0.9	穴2、流路1	-	II層なし、流路は近世以降

第7表 下山新遺跡トレンチ一覧



第5図 下山新東遺跡トレンチ位置図（1:1000）



第6図 下山新遺跡トレンチ位置図 (1:1000)

IV 小括

平成12年度に行った5遺跡の試掘確認調査の結果は以下の通りである。

1. 昨年に続き調査を行った竹ノ内Ⅱ遺跡では、西側の町道長野・南部線まで遺跡の広がりを確認した。また、山際の県道山崎・泊線の西側では、古代と中世が重層してみられるが、スーパー農道西では中世単層となる。
2. 柳田遺跡では、主要地方道朝日・泊線から西で中世及び縄文時代の遺物・遺構を確認した。遺跡の広がりは、朝日・泊線から西に約300mである。
3. 井ノ口城跡では、わずかな遺物が出土したものとの遺跡の性格・範囲を特定できなかった。宅地部分については今後、確認調査を行う予定である。
4. 下山新東遺跡では、2箇所で遺物包含層を確認した。時代は、縄文晚期と後期である。
5. 下山新遺跡では、縄文時代前期前葉と中期前葉～後葉にかけての遺物が確認された。遺跡の範囲は、河岸段丘の際にから県道舟見・入善線の東約130mあたりまで広がる。

遺 跡 名	トレンチ番号	本調査対象面積	出 上 遺 物	遺 蹟 の 時 代
竹ノ内Ⅱ遺跡	8T~24T	7,005(延10,221)	土師器・須恵器・中世土器・珠洲	奈良・平安・室町
柳田遺跡	1T~22T	7,320	縄文土器・叩石・石刀・珠洲・白磁	縄文・室町
井ノ口城跡	1T~25T	-	縄文土器・叩石	
下山新東遺跡	1T~33T	1,447	縄文土器・石皿・伊万里・唐津・越中瀬戸	縄文
下山新遺跡	1T~13T	5,190	縄文土器・打製石斧	縄文
總 計		20,962 (延24,178)		

第8表 平成12年度試掘確認調査一覧

引用・参考文献

『朝日町史』 1984

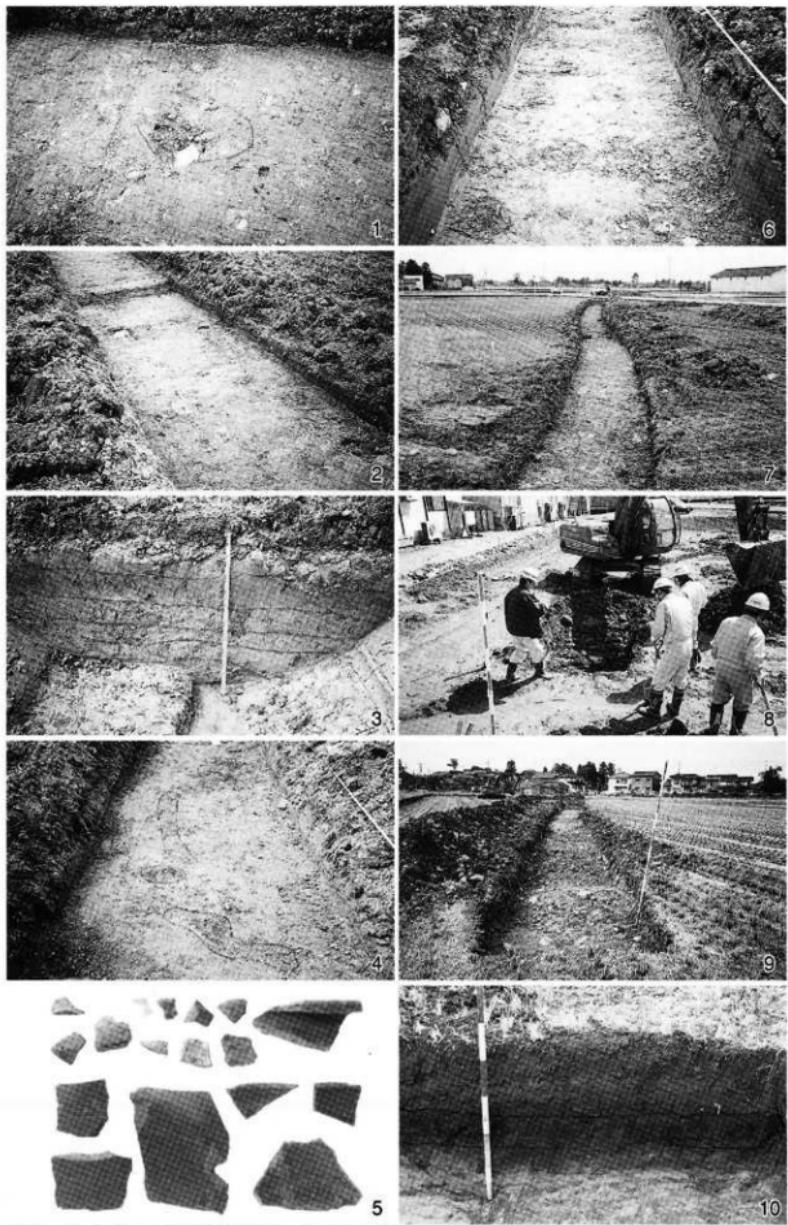
『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告 HS-11・HS-12・HS-13』財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2000



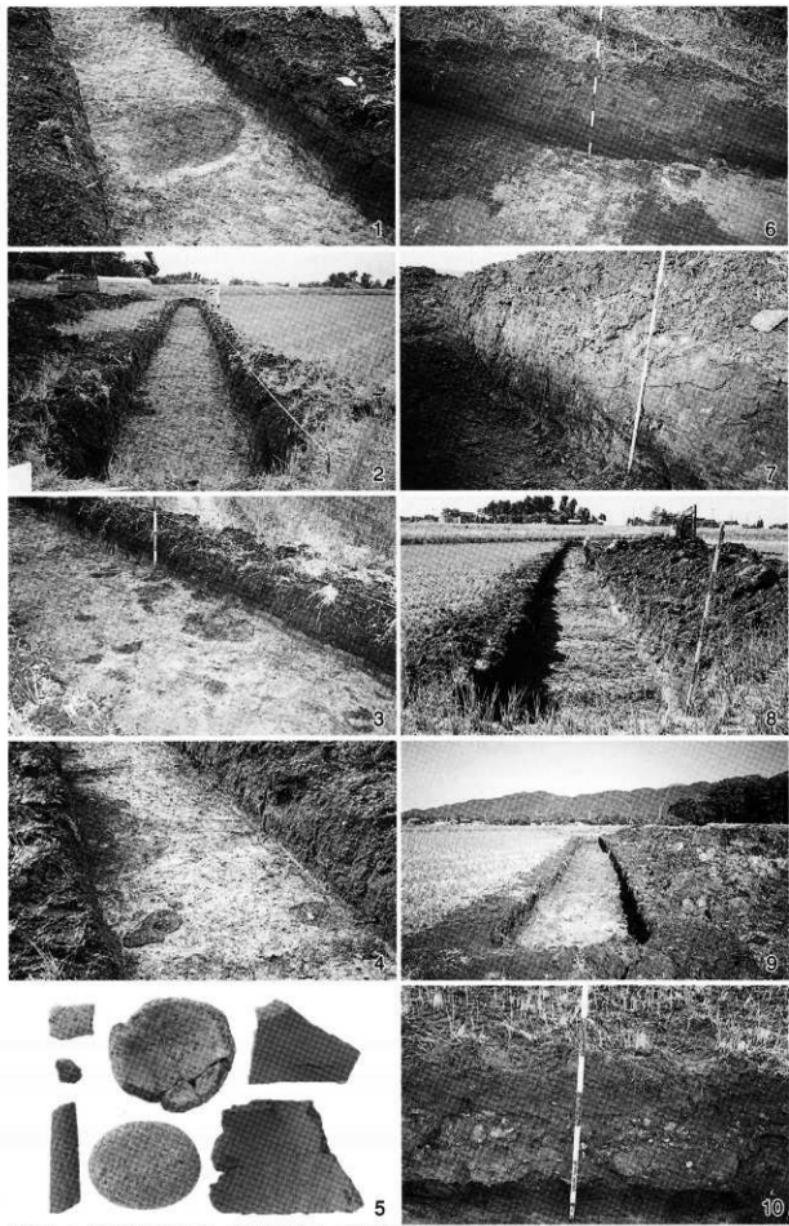
図版1 竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡(1964年撮影)



図版2 竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡(1988年撮影)



図版3 1・2.竹ノ内Ⅱ遺跡T13遺構 3.同T14層位 4.同T14遺構 5.同出土遺物 6.同T16遺構
7.同T16全景 8.同作業風景 9.柳田遺跡T4全景 10.同T6層位



図版4 1.柳田遺跡T6遺構 2.同T7全景 3.同T7遺構 4.同T9遺構 5.同出土遺物 6.同T21遺構
7.同T13谷 8.同T17全景 9.井ノ口城跡T1全景 10.同T6層位



図版5 1. 井ノ口城跡T14全景 2. 同T22全景 3. 同T25全景 4・5. 同作業風景 6. 下山新東遺跡T30全景 7. 同T24全景 8. 同出土遺物



図版6 1. 下山新東遺跡T24層位 2. 同T29遺構 3. 同作業風景 4. 下山新遺跡T1全景 5. 同T7全景
6. 同T1層位 7. 同T4遺構 8. 同出土遺物

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞうちちょうさほうこく
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（2） —竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡—
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第13集
編著者名	酒井重洋、島田美佐子、町田賢一、野口雅美
編集機関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	°' "	°' "			
竹ノ内Ⅱ遺跡	朝日町長野	3430	87	36° 55' 54"	137° 34' 20"	20000417 ～ 20000420	1,047	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
柳田遺跡	朝日町字城町	3430	63	36° 55' 28"	137° 33' 36"	20001016 ～ 20001025	754	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
井ノ口城跡	朝日町大家庄	3430	88	36° 55' 20"	137° 33' 10"	20001019 ～ 20001025	865	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
下山新東遺跡	朝日町下山新	3430	68	36° 54' 52"	137° 32' 23"	20001016 ～ 20001027	2,664	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
下山新遺跡	朝日町下山新	3430	69	36° 54' 46"	137° 32' 03"	20001025 ～ 20001027	496	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
竹ノ内Ⅱ遺跡	集落	古代 中世	溝・土坑	須恵器・土師器 中世土師器・珠洲	
柳田遺跡	集落	縄文	溝・土坑	縄文土器・石刀・叩石 珠洲・白磁	
井ノ口城跡		中世		縄文土器	本調査を必要としない
下山新東遺跡	集落	縄文		縄文土器・石皿	
下山新遺跡	集落	縄文	土坑	縄文土器・打製石斧	

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第13集
北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(2)
一竹ノ内Ⅱ遺跡(長野地区)・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡一

編集・発行 財團法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 074-442-4229

発 行 日 2001(平成13)年3月30日
印 刷 株式会社 ニッポー